

## テーマ展 ガラス乾板

日5/7(木)~6/28(日) 9時30分~17時

所いしかり砂丘の風資料館(弁天町30・4)

## ガラス乾板に残された百年前の石狩・花畔

今回ご紹介するのは「ガラス乾板」です。ガラス乾板はカメラフィルムと同様の役割をする写真の感光材料で、19世紀以降にヨーロッパから広まり、明治10年代半ばに日本へ伝わってから昭和まで長く使われました。しかし、文字通りガラス製のため、割れやすく、重いという課題があり、劣化しやすく保管が難しいものでもありません。そして、昭和に入りカメラフィルムが普及すると、管理面、撮影や焼き増しなどの利便さからガラス乾板は姿を消しました。

花畔郵便局長だった故齊藤茂さんが撮影した明治から昭和にかけての石狩・花畔の風景が写ったガラス乾板を、このたび市に寄贈いただきました。寄贈いただいたガラス乾板、フィルムなどは合わせて千点以上あり、日本製、イギリス製など種類も多様です。

撮影された中で最も古いものは、1905(明治38)年に花畔尋常高等小学校の校庭で行われた日露戦争凱旋式の様子を写したものです(写真①)。それ以外にも、花川小学校の旧校舎(写真②)や花畔郵便局、農作業風景のほか、人物写真も多く撮影されています。これらは、花畔を中心とした昔の石狩の風景、そして当時の人々の暮らしを見ることができる貴重な資料です。

ガラス乾板の整理をしていると、石狩川を走

る外輪船(写真③)、映画で見るとような乳母車、子ども用のブリキ製スポーツカー風四輪車などの心躍るような道具や、今ではなかなか見かけない風景、時代を問わず見ていてワクワクする画像も多数見つかりました。

これらの乾板は、本紙3月号の「いしかり博物誌166」でご紹介した写真とも重なるところが多く、ぜひ合わせてご覧いただきたいものです。5月7日~6月28日まで、いしかり砂丘の風資料館でガラス乾板のテーマ展を行います。明治から昭和にかけての石狩・花畔の様子と、非常に貴重なガラス乾板をご覧ください。(坂本恵衣)



写真① 日露戦争凱旋式



写真② 花川小学校の旧校舎



写真③ 石狩川を走る外輪船

石狩市学芸員  
坂本恵衣 Kei Sakamoto

専門は文化人類学。地域信仰について調べるとともに、石狩の人々の生活の中で宗教がどのように考えられていたのか、歴史的変遷などを研究する。